

## 第74回日本食道学会学術集会 延期のお知らせ

### 会員の皆様へのお詫びとお願い



第74回日本食道学会学術集会 会長  
**丹黒 章**  
 (徳島大学大学院医歯薬学研究部  
 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野)

初夏の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。例年であれば市街が川に囲まれた川の城下町「徳島」、三味と笛、鐘の音に合わせ、あちこちの川沿いで、8月の本番に備えた阿波踊りの練習風景が見られる季節ですが、今年はそれが叶いません。

新型コロナウイルスの世界的蔓延は3月11日の世界保健機構によるパンデミック宣言後も世界中で多くの感染者と死者を出し、世界の医療者が、ワクチンや特効薬がない、まさに徒手空拳でこのウイルスと戦っています。東京における感染者も日々増え続け、4月7

日には7都道府県に緊急事態宣言が発令されました。日本各地で、同僚や家族の感染に恐々しながら、日々増え続ける感染者への対応に振り回される毎日で、今後の拡散に予断を許さない状況です。

今年から数えて55年前、第18回胸部外科学会学術集会が1965年10月19, 20日の会期で、徳島市民ホールを会場に開催されました。その前日の10月18日に本学会の前身、食道疾患研究会が眉山ホテルで開催されました。55周年となる第74回日本食道学会学術集会を6月11, 12日に徳島で開催すべく、準備を進めて参りました。プログラム編成もほぼ終了し、様々な特別企画を練って参りましたが、コロナウイルス蔓延状況を鑑み、土岐理事長と相談の上、4月7日に臨時の持ち回り理事会を開催していただき、会期を12月10日(木)、11日(金)の2日間に延期させていただきました。

会場はJRホテルクレメント徳島とあわぎんホールです。

すでにご応募いただきましたご演題に関しましては演者の皆様お一人お一人に確認をしたのちに、プログラムを再編成いたします。決定事項は逐一、学会ホームページ (<http://www.jes2020.umin.jp/>) に掲載いたします。

会員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、この度の新型コロナウイルス肺炎は感染力も強く、人命にかかわる非常事態であります。ご理解とご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

今後も経過を逐一ご報告申し上げる所存ですが至らぬ点も多々あると存じます。ご高配賜りますことをよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、コロナウイルスの1日も早い収束と貴施設のますますのご発展、皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

### お知らせ

### 2020年度 教育セミナー開催のお知らせ

新型コロナウイルス肺炎拡大の影響により第74回日本食道学会学術集会の会期が延期されました。  
 これに伴い、教育セミナーも同時開催については見送ることになりました。

今後、開催スケジュールや開催様式を変えて行う予定です。開催の詳細や専門医申請・更新における参加実績の扱い等につきましては、決まり次第ホームページ上でお知らせいたします。

事前申込については、予定どおり申込を受付いたします。(4月15日より5月20日まで)

皆様には大変ご不便、ご迷惑をおかけしますが現在の状況を鑑み、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【受講料】事前申込 4,000円(テキスト、受講証含む)

- 【セッション】
  1. 食道癌とゲノム(京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座・武藤学先生)
  2. Barrett食道癌に対する内視鏡診断(佐久医療センター内視鏡内科・小山恒男先生)
  3. 食道癌の画像診断(倉敷中央病院放射線診断部・小山貴先生)
  4. 食道扁平上皮癌の病理組織学的治療効果判定  
(公立大学法人横浜市立大学医学研究科・医学部分子病理学・藤井誠志先生)
  5. 頸部食道癌(江戸川病院外科・中島康晃先生)
  6. 食道癌におけるがん免疫(福島県立医科大学消化管外科学講座・河野浩二先生)

事前登録していただいた先生には、テキストと受講証をお送りします(6月上旬頃)。

今回に限り、テキストを熟読するということでお送りする受講証には受講済の印が押してあります。

本年もしくは次年度以降の外科専門医の申請に用いることが可能です。

12月の学術集会会場においてもテキストの販売と受講証の授与を予定していますが、本年度の食道外科専門医等の新規申請・更新に受講実績として利用しようと計画している方は、忘れずに事前申し込みをしてください。

なお、教育セミナーの講演については、ウェブ配信を計画しております。

配信時期などの詳細については、決まり次第お知らせいたします。

受講の証明とは関係ありませんが、そちらも参加していただくようお願いいたします。

## 各種委員会・部会報告

### 〔選挙管理委員会〕

### 2020年度 役員選挙(次期副会長・理事・監事)について

委員長 岡住 慎一(東邦大学佐倉病院 外科)

本年の日本食道学会役員改選につきましてご連絡申し上げます。次期副会長、理事、監事が選定されます。次期副会長(第77回会長)は外科となります(役員・評議員選任規定第7条ー2)。理事は、評議員でありEsophagusに最近2年以内に最低1編以上投稿していることを要します。

選挙日程および改選数は以下の通りです。

#### 【役員選挙日程】

告示日 : 2020年4月24日(金)  
立候補受付期間 : 2020年4月27日(月)から5月19日(火)16時必着  
立候補者公示日 : 2020年5月22日(金)  
選挙 : 2020年7月7日(火)

#### 【次期副会長選挙】

外科

#### 【理事選挙】

2020年度改選理事

外科7名、内科1名、放射線科1名、基礎系1名

#### 【監事選挙】

2020年度改選監事

内科1名

### 〔会誌編集委員会〕

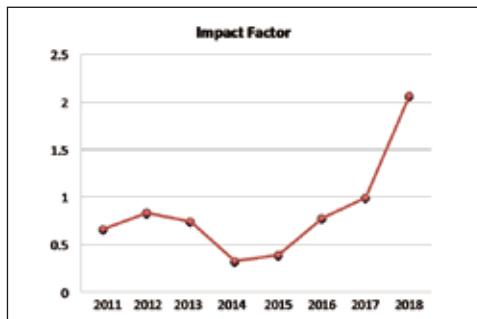
### 委員会報告

委員長 松原 久裕

(千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学)

本学会の英文機関誌Esophagus誌は前回のNews Letterでお知らせしたように会員皆様のご支援、ご尽力により2018年のImpact Factorは2.061まで上昇しました。2019年は更なる上昇を期待しています。この4月よりEditor-in-Chiefとしても前任の小澤壯治先生から引き継ぎました。食道学、世界トップのジャーナルとなるべく頑張っていきたいと思います。皆様のご支援、よろしくお願い申し上げます。

2019年の投稿状況ですが、181編の新規投稿がありました。内訳はreview articleが17編、原著論文が153編でした。acceptance rateは全体で32.0%、原著論文だけで見ると33.8%となっています。投稿された著者の地域ですが、日本が80編と約44%を占めています。2012年は68.3%であったので、日本以外の投稿が増加しています。特に昨年は北米からの投稿が顕著に増加し、2012年わずか4編4.0%であったのが20編約11%と著明な伸びを示しております。これはMedline収載の影響によるものと考えており、IFの上昇とともにますますこの状況が進むことを期待しています。アジアからも2012年4編4.0%であったのが50編約28%と飛躍的に増加しています。まだまだ、日本以外からの論文の質はあまり高くなく、採択率は低いのが現状です。しかしながら、世界での認知度が進むことにより、本邦からの世界トップレベルの食道疾患の研究、治療に関する情報発信が世界へより拡がるようになるとともに、世界一の食道学の雑誌として地位が築いていくと確信しています。今後も会員の皆様からの素晴らしい論文の投稿をお願い申し上げます。



### 〔広報委員会〕

### 食道がん一般の方用サイト

### 「食道がんを正しく知ろう!」について

委員長 大平 雅一(大阪市立大学大学院 消化器外科学)

会員の皆様、長らくお待たせしました。本年2月に学会ホームページ(H P)に「食道がん 一般の方用のサイト」が掲載される運びとなりました。本サイトはH Pのさらなる充実を図ることと、他学会、特に日本癌治療学会との連携を図る目的で、約2年前に理事会において承認され、少し時間がかかりましたが、ようやく掲載の運びに至った次第です。

その構成は「食道がんに関する基礎知識」、「食道がんの診断・検査」、「食道がんの治療」の3つのパートに分かれており、広報委員会のメンバーを中心に、それぞれの分野のエキスパートの先生方に執筆いただきました。サイトの内容は概ね、「食道癌診療ガイドライン 2017年版」に従っており、一般の方にもわかりやすい表現で記載しております。ご執筆いただいた先生方には、本誌面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

また、本サイトは各ページで、国立がん研究センターがん情報サービスの、食道がんに関してより平易にわかりやすく記載されている“食道がんに関する情報や療養に関する情報”のサイト、ならびに本学会の竹内裕也理事・藤也寸志監事のご尽力により作成された“食道がんに関するQ&A”的サイトにワンクリックで移動することができるようになっております。

今後はプライバシーポリシーの問題、掲載内容更新の手順の問題、外部ウェブサイトへのリンク基準などについて検討し、より良い、わかりやすい、充実したサイトにするべく努力する所存ですので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

もし、まだご覧になっていない会員の方がおられましたら、ぜひ一度ご覧いただいて、日常の患者さんとの対応などにお役立ていただけたら幸いに存じます。



### 〔NCD部会〕

### NCD部会報告

部会長 渡邊 雅之(がん研有明病院 消化器外科学)

### 「2020年度NCD研究課題」について

本年度も、日本消化器外科学会による<2020年度NCDデータを利用した消化器外科領域新規研究課題>の公募>が行われ、日本食道学会において8課題の応募がありました。理事会において審査した結果、下記の2課題を採択し、日本食道学会承認課題として消化器外科学会に提出しました。なお、課題②については2施設からほぼ同じ内容の応募がありましたので、学会として調整を行い、両施設による共同研究としています。

①手術アプローチ(開胸、胸腔鏡、ロボット)ごとによる食道切除術後短期合併症リスク因子の比較検討(日本、オランダ、National databaseを用いた国際共同研究)  
北川 雄光 先生(慶應義塾大学医学部 外科学)

②NCDデータを用いた我が国における頸部食道癌手術の現状および術式による短期成績の調査とリスク評価

中島 康晃 先生(東京医科大学 総合外科学)

佐藤 弘 先生(埼玉医大国際医療センター 消化器外科学)

### 「食道癌全国登録2014年症例後ろ向き登録」について

食道癌全国登録は2019年よりNCDに完全移行しました。2019年は2013年症例の後ろ向き登録を行い、解析作業も完了しております。準備が整い次第、会員の皆様方に結果をお届けしたいと思います。さて、2014年症例の後ろ向き登録が3月12日より登録開始となっています。登録対象は2014年1月1日から12月31日に施設を初診したすべての食道癌症例です。5年間の経過観察期間内に行なった手術、内視鏡治療、化学療法、放射線治療をすべて登録していただきたいと思います。今回から、ファイルメーカー・ソフトを利用して、データを施設に残しながらNCDにデータをアップロードできるシステムを準備しました。詳しくは日本食道学会のホームページをご参照ください。非外科系の先生方におかれましても、内視鏡治療・化学療法・放射線治療のご登録を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 〔保険診療検討委員会〕 令和2年度診療報酬改訂結果の報告

委員長 渡邊 雅之(がん研有明病院 消化器外科)

令和2年度診療報酬改訂の結果が確定いたしました。日本食道学会からの要望項目の結果は以下の通りです。

【技術・新規】

1. 食道切除術(切除のみ、胸部食道):採択

【新設】K527-2 食道切除術(単に切除のみのもの) 46,100点

2. 食道大動脈瘻手術(切除のみ):採択

【新設】K527-2 食道切除術(単に切除のみのもの) 46,100点で算定

- (1) 一期的な食道切除再建術が困難な場合であって、食道切除術を行ったときに算定する。

- (2) 大動脈ステント内挿術後であって、食道大動脈瘻に対する食道切除術を行った場合には、本区分の所定点数により算定する。

K560-2 オープン型ステントグラフト内挿術、K561 ステントグラフト内挿術と同時算定可

3. 食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を伴う)(頸部、腹部の操作によるもの)(口ボット支援):採択

K529-3 食道悪性腫瘍手術(頸部、腹部の操作)に対して内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合においても算定できる。

4. 食道内多チャンネル・インビーダンスpH測定検:不採択

日本消化管学会を主学会として共同提案

5. 高解像度食道運動機能検査(high resolution manometry):不採択

日本消化管学会を主学会として共同提案

【技術・改正】

1. テントグラフト内挿術・胸部大動脈(食道悪性腫瘍に対して):取り下げ

薬事承認が得られていないため、検討対象外。

2. 脊髄誘発電位測定等加算 食道悪性腫瘍切断術に用いた場合の追加:採択

【項目の見直し】

脳、脊椎、脊髄、大動脈瘤又は食道の手術に用いた場合 3,630点

3. 食道悪性腫瘍手術における有茎腸管移植の加点増加:不採択

4. 食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を伴う)(頸部、腹部の操作によるもの)(縦隔鏡下)の増点:取り下げ

5. FDG-PETの治療効果判定への適応拡大:不採択

日本核医学会を主学会として共同提案

【その他食道関連の改正】

1. K526-4 内視鏡的食道悪性腫瘍光線力学療法 14,510→22,100点(増点)

2. K529-2-1 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(頸部、胸部、腹部操作によるもの) 125,240→133,240点(増点)

3. K529-2-2 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(胸部、腹部の操作によるもの) 104,190→109,140点(増点)

なお、自動縫合器・吻合器加算について試案登録個数への承認増を外保連から一括申請していましたが、食道領域に関して個数増は認められませんでした。

今後とも、臨床現場からの要望を保険診療につなげられるように、最大限努力してまいります。あらためて、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

## 〔食道科認定医認定部会〕 食道科認定医認定部会より

部会長 竹内 裕也(浜松医科大学 外科学第二講座)

日本食道学会では、食道科認定医を「食道の解剖生理の研究ならびに食道疾患の診療に必要な知識を備え、その研究および診療を担当する能力を有する医師であることを本学会が公認するもの」と定めています。食道外科専門医とは違い、外科以外の診療科や基礎の先生方もその資格を有することができます。

食道科認定医の新規認定申請、更新認定申請には、定められた研究業績(論文、学会発表)と研修実績(学会出席、セミナー受講)による書類審査が必要となります。令和元年度は68名の新規申請があり、うち67名が食道科認定医として認定されました。また115名が食道科認定医の更新申請をされ、全員更新が認められています。この結果、食道科認定医は令和2年1月現在 956名(外科系 859名、内科系 74名、放射線科 17名、基礎系その他 6名)となりました。

専門的な知識を必要とする食道疾患の診療や研究を行うにあたり、ぜひ食道科認定医を取得していただき、国民の健康と福祉、そして日本食道学会の発展に貢献していただければありがたく存じます。令和2年度の申請につきましては学会ホームページをご参照ください。

## 〔食道外科専門医認定部会〕 食道外科専門医認定試験

部会長 安田 卓司

(近畿大学医学部 外科学教室上部消化管部門)

本年も6月から7月末までの期間で2020年度の食道外科専門医の新規申請を受け付ける予定です。が、コロナウイルス禍が世界中を席巻しており、今後の情勢は予断を許しません。人類は必ずこれを克服すると確信していますので、今年の11月に例年通り筆記試験・口頭試問が行えると信じて準備を進めていきたいと思います。

まずは昨年の試験の結果から報告します。昨年度の新規申請者は19名と一昨年の33名と比べてかなり少ない受験者数でした。一昨年から試験は新方式となっており、その時の受験者から情報が流れ、昨年は若干警戒されたのかもしれません。一次審査の結果は、手術ビデオ審査と書類審査の両方で不合格が2名、手術ビデオのみの不合格が4名で、二次審査は一次審査合格の新規申請の13名に一昨年の試験で二次試験不合格となった3名(一次審査免除)を加えた16名で行われました。筆記試験(70点満点)は平均46.1点(最高56点)、口頭試問(30点満点)は平均17.6点(最高24点)で、総合得点は平均63.7点(最高77点)で、15名が合格と判定され、最終合格率は68.2% (15/22) でした。例年も7割前後の合格率なので同様の結果がありました。試験方式は変わりましたが、手術手技と異なるブースを全て廻って実臨床の経験と知識、判断力を評価する、よりstatusの高い専門医資格ですので、日頃の実力を存分に発揮して挑戦して頂ければと思います。

ここで例年指摘する注意点を再度周知させていただきます。

◎手術記録は電子カルテ内の公式記録を一切の追記・修正なしで全頁提出してください。

◎領域別の術者名の記載がない場合は、術者一覧表に別途記載して提出してください。

◎手術ビデオは、術野が確認でき、上縦隔郭清を含む定型的な縦隔郭清手技を含むビデオを提出してください。Salvage手術で非定型的な郭清手技を行った症例や郭清を一部省略した症例は評価できません。頸部から上縦隔郭清を行う場合は、同一症例で同一術者が行った頸部郭清のビデオを添付してください。

◎接合部癌症例は、下縦隔郭清が行われ、かつ吻合部が少なくとも胸腔内に位置する症例以外は認められません。

食道外科専門医は、専門医制度の3階部分に相当し、技術と共に食道外科に関する経験と知識を全て総合的に評価する他に例を見ない専門医資格です。是非、取得することを大きな目標として掲げて頂き、今年は昨年をはるかに上回る先生方のチャレンジがあることを期待しています。

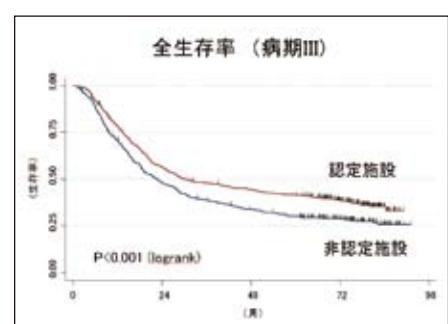
## 〔食道外科専門医認定施設認定部会〕 施設認定制度の正当性

部会長 本山 悟(秋田大学医学部附属病院 食道外科)

2020年1月現在、食道外科専門医認定施設(認定施設)として123施設、準認定施設として42施設、計165施設が本学会により認定されています。2013年1月の初認定から7年以上経過し、本制度はすでに確立されたものとして会員に周知されています。認定要件の設定に当たっては、食道領域の手術件数がそれほど多くないなか、全国くまなく手術が実施されている状況を重視し、決して手術件数を過大評価することなく、バランスのとれた要件設定を目指したと聞いています。今後の課題は、本学会の専門医制度の正当性を社会に対していかに啓発していくかに尽きます。このたび、本学会施設認定制度の正当性、つまり認定施設で手術を実施するとの優位性を示す研究結果が論文報告されましたので紹介致します。

◎National Clinical Database (NCD)に登録された、胸部食道癌手術症例(2015-2017年登録、16,752例)を対象に検討したところ、認定施設で手術を受けた患者さんの手術閲連死亡率は1.6%で非認定施設の2.8%と比較し有意に低い結果でした。「認定施設で実施」が「専門医が執刀」より手術閲連死亡減少に強く関与していました。(Esophagus 2020)

◎全国のがん拠点病院等による院内がん登録に登録された、胸部食道癌手術症例(2008-2009年登録、4,897例)を対象に検討したところ、認定施設で手術を受けた患者さんの5年生存率は非認定施設で手術を受けた患者さんと比較してcStage I-IVの全Stageで有意に高い結果でした。(Esophagus 2020、右図)



〔研究推進委員会〕

**2020年度日本食道学会研究課題について**

委員長 掛地 吉弘(神戸大学 食道胃腸外科)

研究推進委員会は2015年度に新設され、2019年度までの5年間に11課題が食道学会において承認されて全国規模の研究が行われています(食道学会ホームページの研究活動をご参照下さい)。昨年の第73回学術集会(福岡)で2課題の成果が発表されました。本年の第74回学術集会(徳島)でも、下記の課題の成果が発表される予定です。

ワークショップ GERDの診断と治療における進歩と展望(領域横断的セッション)  
食道裂孔ヘルニア・胃食道逆流症の外科治療の全国実態調査  
小澤 壮治 先生(東海大学 消化器外科)

本年度も<2020年度の研究課題の公募>を行いました。本年は4課題の応募がありました。計画の科学性、実現可能性、学会主導として行う妥当性などを研究推進委員会で審査した結果、下記の2課題を選出し理事会でも承認されました。応募課題は全て優れたものでしたが、調査に協力して頂く施設の負担を考えて採用は2課題としました。

1. 食道癌術前化学療法の奏効と再発形式に関する検討  
北川 雄光 先生(慶應義塾大学医学部外科学)
2. 食道癌全国登録データを用いた食道腺癌・食道胃接合部腺癌手術症例におけるリンパ節転移の実態と郭清効果の検討  
渡邊 雅之 先生(がん研有明病院 消化器外科)

本活動は立ち上がりの5年が過ぎて6年目に入り、更なる研究活動の向上と充実が求められます。「食道学会が主導して世界に情報を発信する」という目標の下に学会と会員が協力してより良い研究が成されるように、委員会も全力を尽します。会員の皆様からの多くのご提案、ご意見を頂戴しながら進めて参ります。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

■ ■ ■ 会告：第 76 回日本食道学会学術集会 ■ ■ ■

**第76回学術集会会長より**



東邦大学大学院消化器外科学講座・  
臨床腫瘍学講座

教授 島田 英昭

2022年9月24日(土曜日)から京王プラザホテル(新宿)にて第76回日本食道学会学術集会を御世話させていただきます。今回は、国際食道疾患会議( ISDE )との同時・合同開催ですので、会期を9月にさせていただきました。日本食道学会は、9月24日(土曜日)の評議員会ならびに教育セミナーから始まって、9月25日(日曜日)と9月26日(月曜日)が学術集会となります。ISDEについては、9月26日(月曜日)から9月28日(水曜日)までの3日間の開催です。9月25日(日曜日)の夜には、両学会の参加者全員のレセプションパーティーの予定です。2022年は、食道癌診療ガイドラインの最新改訂版が発刊されるタイミングです。合同シンポジウムなどで本邦の食道癌診療を世界に向けて発信できるようなプログラムを工夫したいと考えております。会員の皆様におかれまして、多くの演題登録をよろしくお願い申し上げます。

■ ■ ■ 2020 年以降の学術集会のご案内 ■ ■ ■

◆ ◆ ◆ 第74回日本食道学会学術集会

会長：丹黒 章(徳島大学大学院医歯薬学研究部  
胸部・内分泌・腫瘍外科学分野)

会期：2020年12月10日(木)～11日(金)

会場：ホテルクレメント徳島、あわぎんホール

◆ ◆ ◆ 第75回日本食道学会学術集会

会長：岩切 勝彦(日本医科大学 消化器内科学)

会期：2021年6月3日(木)～6月4日(金)

会場：ヒルトン東京お台場

◆ ◆ ◆ 第76回日本食道学会学術集会

会長：島田 英昭(東邦大学大学院

消化器外科学講座・臨床腫瘍学講座)

会期：2022年9月25日(日)～26日(月)

会場：京王プラザホテル

\*編集後記

新型コロナウィルス(COVID 19)の猛威により、世界中の国々が信じられないような状況に陥ってしまい、わが国では4月7日にはとうとう緊急事態宣言が発せられるまでに至りました。会員の皆様の地域においても病院や診療所あるいはご家庭で、これまでに経験したことのない大変な事態に直面しておられることと思いますし、例えば食道癌の手術件数も制限せざるを得ない状況になっているのではないかでしょうか。

このコロナウィルス パンデミックにより、丹黒 章会長の主宰される第74回日本食道学会学術集会が2020年12月10日、11日に延期されました。あわせて例年、学術集会の際に開催されております教育セミナーも例年と異なる様式となっておりますのでご注意ください。さらに専門医、認定医、外科専門医認定施設の新規申請や更新については、このパンデミックにより会員の皆様に不利益とならないよう、各委員会、部会において検討しておりますので、詳細はHPをご覧になってください。

本ニュースレターの中でも述べておりますが、HP上に一般の方用のサイトを設けることができました。会員の皆様にはぜひ一度このサイトをのぞいていただき、内容についての問題点、疑問点などありましたら、ご遠慮なく広報委員会までお申し出いただければ幸いです。

さらにHPの一般の方用のサイトのお知らせに、日本癌治療学会で作成されました、「新型コロナウィルス感染症とがん診療について(患者さん向け)Q&A」をリンクできるようにしておりますので、ぜひご活用いただければと思います。

このパンデミックがこの先どうなっていくのか、5月に入ってややその勢いは弱まったような感じですが、またその勢いをぶり返す可能性も十分考えておかないといけない状況だと思います。第74回学会が12月に無事開催されること、このパンデミックが「終息」となって欲しいですが、せめて「収束」に向かっていただきたいと祈るばかりです。

広報委員会 委員長 大平雅一  
委 員 有馬美和子、出江洋介、熊谷洋一  
竹内裕也、奈良智之、白川靖博  
山崎 誠、山辻知樹、村上健太郎

**特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局**

〒130-0012

東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階

電話 03-6456-1339 FAX 03-6658-4233

e-mail: office@esophagus.jp

ホームページ <http://www.esophagus.jp/>